

科目名称	老年看護学方法論Ⅱ	学年学期	単位数	時間数
		2 学年後期	1	30
担当教員	栗林 のり子	授業に関わる 実務経験	☒ 有（看護師） ☐ 無	

【1】授業概要

老化に伴って起こる疾病・障害を理解し、健康障害のある老年期にある人の看護計画を、発達課題、QOLの向上を考慮して立案し、看護援助の方法を考え、実践できる能力を養う。

【2】学習目標

1. 紙上事例を使って健康障害のある老年期にある人の看護過程の展開ができる。
2. 認知症高齢者の看護について説明できる。
3. 事例による看護計画に基づいて個別性を考えた看護技術が提供できる。
4. 老年看護学学習で実施する看護技術の根拠と留意点が述べられる。

【3】第2看護学科ディプロマポリシーとの関連性

- 1. 生活者としての人間を統合された存在として多角的に捉えることができる。
- 2. 人間の生命、人間としての尊厳及び権利を尊重した判断および行動をすることができる。
- 3. 人々の多様な価値観を認識して、専門職業人としての共感的態度および倫理に基づいた看護実践をすることができる。
- 4. 看護の対象となる人々の健康状態を判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。
- 5. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種の連携・協働を図り調整的役割を果たすことができる。
- 6. 松山市および愛媛県周辺の地域医療への理解を深め、地域の人々の生活を尊重・支援することができる。
- 7. 自己の資質向上のため、看護に対する探究心・向上心をもち、主体的に学び続けることができる。

【4】授業計画

	内容	主な授業形態
1	講義オリエンテーション 事例紹介 NANDA-I について 関連図の作製方法	講義
2	認知症高齢者の看護(1) 認知症の種類 病態生理 検査 治療 予防	講義
3	看護過程の展開(1) 病態関連図	グループワーク 発表
4	認知症高齢者の看護(2)	講義・DVD
5	看護過程の展開(2) 情報収集及びアセスメント	グループワーク 発表
6	看護過程の展開(3) 情報収集及びアセスメント	グループワーク 発表
7	認知症高齢者の看護(3) バリデーション センター方式 ユマニチュード	講義・DVD
8	看護過程の展開(4) 全体像 看護診断	グループワーク 発表
9	音楽療法 音楽療法とは 音楽療法の実践	講義・演習
10	看護過程の展開(5) 看護計画	グループワーク 発表
11	看護過程の展開(6) 演習計画立案	グループワーク
12	看護技術演習(1) 事例を基にした看護技術演習	演習
13	看護技術演習(2) 事例を基にした看護技術演習	演習
14	演習のまとめ 看護技術の根拠:老年看護に必要な看護技術と留意点	講義 グループワーク
15	筆記試験・まとめ	

【5】評価方法

筆記試験 70 点 グループワーク 20 点(学生による相互評価) 課題提出 10 点により総合的に評価する。

【6】教科書

系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院
T-ハザー・ハートマン編:NANDA-I 看護診断-定義と分類,医学書院

【7】参考書

蔵谷範子:関連図の書き方をマスターしよう,サイオ出版
山田律子編:生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図,医学書院

金川克子監: 老年症候群別看護ケア関連図&ケアプロトコル, 中央法規
東風平智江美, 田村正枝: 疾患別/看護ケアのための病態関連図, 医学芸術社
亀井智子: 根拠と事故防止からみた老年看護技術, 医学書院
黒田裕子: 入門・看護診断—看護診断を使った看護計画の立て方改訂版, 照林社
阿部俊子 監修: エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図 第3版, 中央法規出版, 2024.

【8】受講生へのメッセージ

紙上事例を用いて、臨地実習で行う看護過程の展開を体験します。